

中丸小学校の音楽室を開放します

村民の皆さんの文化活動の場として、中丸小学校の音楽室(特別教室棟)を開放します。ぜひご利用ください。



対象▼下記の①～③を満たす団体

- ①構成員の半数以上が村内在住・在勤・在学である
- ②団体の責任者が18歳以上である
- ③合唱、楽器演奏の練習等を利用目的とする

利用時間▼▽月曜日～金曜日…夜間枠(午後6時～9時)▽土・日曜日、祝日…午前枠(午前9時～午後1時)、午後枠(午後1時～5時)、夜間枠(午後6時～9時)

利用料▼無料

その他▼▽ルールを順守してご利用ください。

▽施設の開錠(施錠)は利用者自身で行ってください。▽学校備品の借用については、別途協議が必要となります。

申し込み・問い合わせ▼所定の申請書に必要事項を記入の上、利用希望日の1週間前までに、生涯学習課文化芸術・スポーツ推進担当(歴史と未来の交流館内 ☎287-0851)へ申し込みください。



▲詳細はこちら

640基の宝物

ふるさと歴史

歴史を再発見

村内を移動中、道端にたたずむ小さな「お地蔵さん」が目に入ったことはありませんか。みんな同じ「お地蔵さん」のように思えますが、よく見ると違うポーズをしていたり、子どもを抱えていたり、石版に文字が刻まれているものだったり、姿かたちが違うものがあることに気が付きます。これらを総称して石仏・石塔と呼びたいと思います。

実は石仏・石塔には、首を少し傾けて手を頬に当てている如意輪観音や、子どもを抱いている子安観音、馬頭観世音などの牛馬供養、田んぼにそびえる記念碑など、さまざまな種類があります。

さて、これらの石仏・石塔を作ったのは一体誰でしょうか。

それは、東海村で生きた無数の村民たちです。例えば、押延地区にある子安観音には「女中」と刻まれています。地区の女性たちが、無事の出産や子どもの健やかな成長を祈って作ったのです。また馬頭観世音や馬力神は、農耕から運搬まで人々を助けてくれる馬を大切に思う村民たちが、馬の供養や無病息災を祈って作りしました。そして各地に見られる記念碑は、真崎浦干拓の苦難の歴史や土地改良区が歩んだ歴史など、事業遂行に尽力した大勢の村民たちが残したい記憶とメッセージを石に刻み作ったもの

歴史と未来の交流館学芸員

林 恵子

のです。まさに、石仏・石塔は、この地に生きた村民たちが祈りと想いを込めて作り、後世へと残した東海村民の宝物なのです。

では、東海村にはどんな石仏・石塔がいくつあるのでしょうか。実は約8年間をかけて、村内をくまなく歩き調べ上げた村民たち(住民団体「東海ぶらら倶楽部」)がいます。彼らが調べた640基の石仏・石塔が『東海村の石仏・石塔(令和版)』としてまとめられ、3月末に刊行されます。この本は村民が自らの手と足で調べた成果を自分たちの言葉で記した本であり、石仏・石塔は東海村に生きる村民のモノなのだとということを体現した本です。

この春、ぜひ本書を手に入れた東海村の石仏・石塔を巡る旅に出たいかがでしょうか。きつと、今まで視界に入らなかった道端の小さな石仏・石塔が、大切でいとおしい存在に思えることでしょう。



【押延地区の子安観音】
(東海ぶらら倶楽部撮影)

